

4点②	生も死も噴煙の中冬の山	守	1点	夕ぐれや喪服に雪のちりかかる	ヤエ子
3点②	隕石のひかり近づく夢始め	明美	1点	誉められも叱られもせず木の葉髪	幸
3点①	三日過ぎエプロンの日々戻りたる	友子	1点	初場所やもぎりに人気元力士	ヤエ子
3点	初夢の無くて朝餉を支度せり	ヤエ子	1点	兵六人の不動の姿勢寒空に立つ	幸
3点	初夢の母は自分と成りにけり	直子	1点	寄り添って祈る二人の初詣	眞壽
2点①	独り居や響く琴の音淑気満つ	ヤエ子	1点	方言は生きた風土や寒昂	幸
2点	チェーン巻く記憶の中の寒さかな	明美			
2点	人日や考へる葦とA Iと	才美			
2点	初夢や願ひ成就のダイエツト	ヤエ子			
2点	千両や花びんに一枝福が来る	直子			
2点	人形劇の鋭き風刺初笑ひ	友子			
2点	新品の万年筆や初句会	かほる			
2点	三日はやメール添付のシフト表	守			
2点	溜まりゆくビットコインや寒波来る	明美			
2点	雪載せてタワーマンション灯りけり	守			
1点①	翁長氏の円かな笑顔初夢に	才美			
1点	雪掻の筋の真つ直ぐ試験場	守			
1点	初山河画布に青色絞りきる	才美			
1点	めでたさは仕事に行ける健脚よ	直子			
1点	雪呑みし暗闇海のうねりけり	守			
1点	成年や狛犬愛でる初詣	友子			
1点	日の氷柱の雫ひとつぶ風に飛ぶ	友子			
1点	初夢や我が銀座のど真ん中	守			
1点	初富士のどんと走者の真正面	友子			
1点	鳥影の反り身によぎる雪の声	才美			
1点	代々の麴屋閉じられ実万両	幸			
1点	大晦日半値シールの刺身買ふ	かほる			
1点	初夢や父抑留の地訪ねたき	幸			
1点	からす啼く雪積む苑の水飲み場	守			
1点	寒の街転びし顔の傷の跡	ヤエ子			
1点	朝日背に素手震はせて寒稽古	明美			
1点	冬日向眠福なりしパンダの子	かほる			
1点	ろうばいの二輪寄り添ひ咲きにけり	ヤエ子			
1点	生剝を拒みしオートロックかな	明美			
1点	正月の主役は赤子手から手へ	友子			
1点	かの恋の行方は知らず初寝覚	守			
1点	暖を取る破魔矢火の中初詣	眞壽			

※ 「大雪ね」と言ひしばかり坂の道

	初夢や会ひたき母の姿なく	友子			
	初夢に犬人形を流しけり	眞壽			
	眺める捨てるに惜しきスキー靴	幸			
	繋がれて船に雪積む一夜かな	明美			
	初夢や一喜一憂の音	かほる			
	初夢や世界遺産に誰れと行く	直子			
	暗闇を照らして歩む初詣	眞壽			
	雪晴れや手書きの手紙嬉しかり	ヤエ子			
	人混みに揺られて歩く初詣	眞壽			
	雪掘ればマリンプルーにつきあたる	才美			
	雪掻の音遠くより戻りけり	守			
	エネルギー満ちて寒波の暮らしかな	明美			
	雪国の苦勞偲びつ雪掻けり	友子			
	初詣港に響く汽笛の音	眞壽			
	終活は賀状を止めてスタートす	直子			
	連続のホールインワン小春かな	かほる			
	爺婆は孫の車で初詣	眞壽			
	七日粥いくさすまいと意に刻む	才美			
	侘助や家路急ぐ小鳥たち	直子			
	權上げてのぼる銀河よ初夢に	才美			
	息白し箱根駅伝選手らよ	直子			
	有馬山早わざ母のかるた札	幸			
	老人の元気のひけつ寒卵	友子			
	錆の浮く自転車で行く初詣	眞壽			
	初夢に土へ鋤込むわが地軸	才美			
	お正月ひとりで祝ふ友が来る	直子			
	みちのくの旅の途中よ冬木の芽	守			
	寒き日は大鍋に煮るカレーかな	明美			

お年玉フル回転の両替機

かほる

初富士や雪積りて美男なり

直子

寒雀低き籬に並びをり

ヤエ子

数の子食むひとり子ばかり増えし世に

友子

何も無し家族揃つて初詣

眞壽

初鳩のくるくる来るわが窓辺

才美

勝独楽の手負ひ抱きしめ回り道

才美

虎落笛窓より届き眠れぬ夜

直子

(欠席投句 古野明美、松浦かほる)

「事務局からお知らせ」

○二月は、句会は休みです。

○三月句会

三月二十五日(日)午後一時から、旭区民文化セ

ンター(サンハート)で行います。

兼題は、「下萌」です。

○四月句会

四月二十二日(日)午後一時から、旭区民文化セ

ンター(サンハート)で行います。